進展せぬまま越年

水俣病 交渉 チツソ、補償額示さず

水俣病補償問題についての水俣病患者家庭互助会（山本亦由会長）とチツソの第四回補償交渉は、二十五日午後二時十分から手ツソ水俣支社第一会議室で開かれ、互助会側から補償額の提示を要求したが、チツソ側は「あくま

で国に対し算定基準を示してもらおう努力する」と回答、結局進展しないまま同六時二十分物別れに終わった。

交渉はまず山本互助会会長から「これまで三回の交渉でなんら進展がなく、会内部にもせつば詰ま

つた空気があるのでせひ補償額を提示してほしい」と要求、これに対し入江チツソ専務は「いまのところ独自の立ち場での提示は困難で、やはり公費認定した国がなんらかの補償額に対する算定基準を示すのが妥当だと思う。チツソと

してはあくまで厚生省や通産省など国の各関係機関に算定基準の指導を強力に要請するつもりだ」と回答した。このさい、会社側は互助会に対して「もう一度互助会側も会社と歩調を合わせて国の各機関に算定基準の指導を要請してほしい」と要請、交渉委員の中から

「すでに補償要求額を出している互助会としては、国に対する要請こそ会社側がやる性格のもので、何度もわざわざ上京して要請することはない」との意見も出て、互助会内部の意見調整のため交渉を中断していったん休憩。結局、互助会側も一応来年早々上京して厚生省、通産省などにチツソと同じような要請を、強力に働きかけることになった。

同日の交渉は補償額の提示を強く要求する互助会の強い出方に反し、会社側の進展しない回答で相当激しいやりとりもかわされ、交

渉途中でも三回も中断してお互いに意見を調整するなど、これまでの交渉にはみられない緊迫した空気があった。またチツソ側は最後に「来年春ごろまでには解決のメドがつけられるよう努力するので、

互助会も協力してほしい」と要請した。なお互助会では、厚生省などに再度算定基準の指導を要請することについて来年一月早々臨時総会を開き態度を決める予定。